

## 震災瓦礫の再資源化の可能性調査

平成23年4月6日に、震災で倒壊した建築物、倒木など瓦礫の再資源化について検討を行うため、岩手大学関野教授、岩手県立大学内田准教授らとともに、久慈市、野田村周辺の瓦礫集積状況の視察・調査を行ったので紹介します。

### 1 瓦礫集積状況の視察

野田村3箇所、久慈市1箇所について視察を行うとともに、被害住宅の棟数などの聞き取り調査を実施しました。



写真1 瓦礫集積地(野田村)



写真2 瓦礫集積地(野田村)

### 2 調査後の検討

調査後の検討について、以下に示します。

- (1) 瓦礫に含まれる木材が多く、パーテ

ィクルボード原料、燃料としての利用が可能

- (2) 木材は汚染状況に応じて、①洗浄がほとんど不要なもの(Aグレード)、②多少の水洗いが必要なもの(Bグレード)、③資源化をあきらめるもの(Cグレード)に分別
- (3) 瓦礫再資源化のフローは、①瓦礫の現地選別(木材・アルミ・鉄・その他)⇒②廃木材のチップ化(A、B、Cグレード分け)⇒③Aグレードチップのボード化⇒④当該ボードを用いた木質仮設住宅の供給⇒⑤Bチップの熱利用およびCチップの処理

### 3 今後の展開

岩手大学、岩手県立大学が中核となり、岩手県沿岸地域の木材関連産業の復興と雇用の創出を目指し、震災瓦礫処理の促進と廃木材を活用した仮設住宅建設に関する検討を進めるため、受入れ先としてパーティクルボード工場、熱利用先の状況調査を進めるとのことです。